

# 山形大学研修会「第12回FD合宿セミナー」

## 【第1チーム】FD合宿セミナープログラム及び記録

### (1) プログラム抜粋

#### FD合宿セミナーに当たって

学士課程教育の充実のためには、第一義的には各学部がその責任を負っていますが、学部の専門を超えた幅広い学びのあり方や授業の改善、学生の主体的な学習支援などは、学部の垣根を超えて全学的に取り組まねばならない課題です。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実是最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あたためて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、大学への参画意識を高めるための2つのプログラムと、シラバスを作成するための2つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「大学間・学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が大学の教育分野全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーは東日本地域の「FDネットワーク“つばさ”」を始めとして、全国の大学に開かれています。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



## 第12回 山形大学FD合宿セミナー日程表

期 間 第1チーム：8月27日（月）～28日（火）

### ○第1日目

時 刻	項 目	担 当	備 考
12:45	山形大学小白川キャンパス 集合・受付	事 務	
13:00	送迎バス 大学出発		
14:00	会場到着 セミナー開会 開会のあいさつ	司会： DR-A	
14:30	アイスブレーキング	DR-A	
14:50	オリエンテーション	DR-A	
15:00～16:30	プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」	DR-A	
16:30～16:40	休憩（10分間）		
16:40～18:10	プログラムⅡ「理想の大学をつくる」	DR-A	
18:10～19:00	夕食		
19:00～20:00	入浴・休憩		
20:00～22:00	懇親会	DR-B	
22:00	中締め		
23:00	就寝		

### ○第2日目

時 刻	項 目	担 当	備 考
7:30～	朝食・部屋退出		
8:30～10:00	プログラムⅢ「科目設計1：授業名と目標、内容の作成」	DR-B	
10:00～10:10	休憩（10分間）		
10:10～11:40	プログラムⅣ「科目設計2：シラバスの完成」	DR-B	
11:40～	修了式	DR-B	
12:20～	昼食		
14:30	送迎バス 蔵王山寮出発		
16:00頃	大学到着 解散		

### 【留意事項】

- セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。
- セミナー期間中の個人の呼称は、「〇〇さん」とします。
- 食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。
- 起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。
- 退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。
- スキーヤーズベットは各部屋2段になっておりますが、清掃と危険防止の観点から2階部分は使用しないでください。
- ベット上での飲食はご遠慮ください。

DR-A	小田 隆治
DR-B	杉原 真晃

A班

所属	氏名	性別
山形大学	小林 政晴	男
山形大学	森田 智幸	男
國學院大學	加藤 季夫	男
桜の聖母短期大学	堺 秋彦	男

B班

所属	氏名	性別
山形大学	伊藤 晶文	男
山形大学	石渡 聡	男
羽陽学園短期大学	佐々木 達雄	男
九州産業大学	松本 孝徳	男
鎌倉女子大学	稲川英嗣	男

C班

所属	氏名	性別
山形大学	西岡 斉治	男
山形大学	石澤 靖典	男
いわき短期大学	村田 文弘	男
日本体育大学	齊藤 崇	男
福島工業高等専門学校	飯田 毅士	男

D班

所属	氏名	性別
山形大学	大久保 清朗	男
山形大学	宮沢 豊	男
大阪工業大学	野村 良紀	男
長岡技術科学大学	石塚 眞治	男
八戸大学	村田 隆史	男

E班

所属	氏名	性別
山形大学	松本 大理	男
山形大学	渡辺 昌規	男
いわき短期大学	前 正七生	男
京都薬科大学	細井 信造	男
國學院大學	阿部 弘生	男

F班

所属	氏名	性別
山形大学	渡辺 修身	男
九州産業大学	田中 信裕	男
東北芸術工科大学	石川 忠司	男
東京薬科大学	藤原 祺多夫	男

## オリエンテーション

### 1 FDの必要性

- ① 大学の社会的教育責務の明確化
- ② 大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
- ③ 大学生の質の変化への対応

### 2 合宿セミナーの目的

- ① 教員個人が大学を支えることの位置付け
- ② 教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などをあらためて整理する。
- ③ 教員相互の交流

### 3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② セミナーのグループ構成：6班  
班の構成員の年齢は幅広くする。
- ③ 各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。（各班の持ち回り）
- ④ 各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。（持ち回り）
- ⑤ 各プログラムの基本的構成
  - 各プログラムを担当する講師による作業内容の説明 10分
  - 班ごとの作業 40分
  - 発表 各班の発表時間4分×6班 24分
  - 全体討論 16分
- ⑥ 全体と各班の記録係は，A4版1枚程度に記録をまとめ，各プログラム終了後に提出する。（この記録は，コピーした後，速やかに参加者全員に配布）
- ⑦ 参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表（各4分で計24分）と質疑応答に対して評価する。5段階評価とし個人は18点の持ち点を有する。（この評価は，毎回回収し，整理した後，速やかに全班に配布）

### 4 各プログラムの基本的形態

- 各プログラムの講師による作業内容の説明 10分
  - グループ作業 40分
  - 発表 各グループ 24分  
(各グループの発表時間4分×6班)
  - 全体討論 16分
- 全体で 90分



## プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」

○各班同じテーマ プログラムⅡも念頭に置く。

現実的、具体的に解析する。

- 1 大学には何が求められているか？
  - ・社会は大学に何を求めているか？
  - ・学生のニーズ
- 2 大学の置かれている状況分析
  - ・そこには、どのような課題（問題）があるか？
  - ・長所（望まれていること）
  - ・短所（望まれていないこと）
  - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点、改革の必要性など

## プログラムⅡ「理想の大学をつくる」

プログラムⅠの問題点などを踏まえた上で、理想の大学をつくるためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。大学の理念・目標を実現するための具体的な行動目標、大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 大学の理念・目標
  - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
  - ・個性的な大学像（理念・目標、キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法、実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動、資源、時期、担当、責任、具体的企画書など）
  - ・その宣伝・普及の方法（4年計画案）
  - ・組織論（学部、学生の入口と出口（入試制度と就職）、学長と副学長制、委員会など）
- 4 評価（測定方法、学生、教員、ステークホルダー）
  - ・目標が達成できたかどうかを検証する

## プログラムⅢ「科目設計1：授業名と目標、内容の作成」

### ここでの課題

シラバス作成作業の第1段階として、各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラムⅢ、Ⅳの各グループの課題

- A, B班：大学の個性を発揮する授業
- C班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- D班：国際性を培う授業
- E班：21世紀の諸課題に対応する授業
- F班：職業意識と労働意欲を培う授業

学習方法と道筋（戦略、学習方略）を明示する。具体的には、学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の、種類と順序を示す。

作業1 授業名の決定：○○○○○○○○○○（仮称）←内容確定後，最後に決定？

作業2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく，学生による学習を中心に考える（教員の果たすべき役割の再検討）
- (2) 大学に対する社会的ニーズ
- (3) 大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割

- 講義の提供 → 学習方法と教育方法のデザイナー
- 学生から独立 → 教員と学生を一つのチームと考える
- 学力差を明確にする → すべての学生の能力と才能を引き出す

成功へ向けて

- 伝授する資源の重視 → 学習と学生の成功の産物を重視
- 資源の量と質の重視 → 産物の量と質を重視
- 入学生の質の重視 → 卒業生の質を重視
- カリキュラムの発展と拡大 → 学習技法の発展と拡大
- 大学の質・内容の質 → 学生の学習の質

使命

- 知識の提供・伝授 → 学習を生み出し，知識の発見と形成へ
- コース・プログラムの提供 → 強力な学習環境の提供
- 教育の質の改善 → 学習の質の改善
- 多様な学生への対応 → 多様な学生を卒業させる

教育

- 教員中心・知識伝授 → 学生中心・知識発見
- 教育の質 → 学習の質，学習効果・効率
- 指導者としての教員 → 学生の才能・能力を引き出す助言者
- 個人的・受動的学習 → 共同的・行動的・能動的学習

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は，教育の受け手（学習の主体）である学生の変容で評価されるべきである。そのために，①授業の目標と②到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果，いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。  
知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々  
※単純な行動を示す動詞は用いない（述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々）
- (3) 必要な目標分類（認知・態度・技能）を総括的に含める。

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるか，具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと

- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく、観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知、態度、技能を分けて書く
  - 知識（認知領域）：知識を得て理解し、一定の能力を獲得する  
述べる、説明する、分類する、比較する、解釈する、推論する、一般化する、適用する、結論する、批判する、評価する、等々の動詞
  - 技能（精神運動領域）：知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する  
感ずる、始める、模倣する、工夫する、行う、創造する、触れる、調べる、準備する、測定する、等々の動詞
  - 態度・習慣（情意領域）：獲得した知識・能力を、情報として相互に提供・交換し合う  
行う、コミュニケーションする、協調する、示す、表現する、系統立てる、参加する、応える、等々の動詞

**作業3** 原則として、週に1回90分の授業を15回実施するものとして、授業の内容を考えてみる。その際、授業の順序と各回の内容、学習法、利用する媒体、資源などについて明示する。内容によっては、授業の目標、到達目標、さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

註：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法：①グループ討議（演習、セミナー、ディベートなど）  
②実験・実習  
③自習（読書、個人研究、コンピュータ活用学習など）

註：学習のための資源

- (1) 人的な面で：
- (2) 物的な面で：①場所  
②媒体（スライド、OHP、標本、VTRなど）
- (3) 予算

## プログラムⅣ「科目設計2：シラバスの完成」

### ここでの課題

プログラムⅢで作成した授業について、シラバスを完成する。

#### ○成績評価

その位置付け

- (1) 教育評価は、学生、教員、カリキュラム（目標、学習方法の立案（方略）、評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は、その中の一つ。

留意点

- (1) どの行動領域を評価するか
  - ① 知識（認知領域）
  - ② 技能（精神運動領域）
  - ③ 態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか
  - ① 学習前（プレテスト）

- ② 学習中（中間テスト）
- ③ 学習終了後（ポストテスト）
- ④ フォローアップ・テスト

(3) 評価の目的

- ① 形成的評価：学生が理解している点，理解が不足している点を発見し，学習法，教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。
- ② 総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。

(4) いかにかに評価するか，複数の評価項目のウェイト

- ① 論述試験
- ② 口頭試験
- ③ 客観試験
- ④ 実地試験
- ⑤ 観察試験
- ⑥ 論文（レポート）

評価の持つべき性格

- (1) 妥当性：計測しようとする項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても，同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ，そういう解答がなされたか分かるか？

# プログラム I 記録「大学へのニーズと課題」

<b>さくらんぼ班 (A班)</b>	司会者：堺 記録者：加藤 発表者：加藤
(大学)首都圏 総合大学 (社会のニーズ)高い就職率、今後 50 年を生きていくための能力 (学生のニーズ)自分がしたい勉強が可能、質の高い学びの場 (大学が置かれている)企業に引っ張られすぎ (長所)様々な分野での進路に対応できる 高いポテンシャル (短所)気づきが少ない	

<b>つばさ班 (B班)</b>	司会者：稲川 記録者：伊藤 発表者：松本
想定する大学→地方・私立大学 ー教育学部(定員 100 人) ー工学部(定員 300 人)	
1. 社会が大学に求めているもの 基礎学力 学生(保護者)のニーズ→地元志向が強い	
2. 大学の置かれている状況分析 地元の就職先が少ない[問題]→学生のニーズと合わない (長所)実家が少ない(就学費用が少ない) (短所)就職出来ない 理由：学生の強い地元志向と大学側の就職先の斡旋(地元以外・都市部)が食い違う	

<b>洋なし班 (C班)</b>	司会者：村田 記録者：石澤 発表者：西岡
1 大学に何が求められているか 大学・学部の設定ー東北の教育関係の大学 ・社会は大学に何を求めているのか ○教員養成 ・地域に根差した教育、教員養成 ・統廃合の議論に対する抵抗 ○地元のニーズに応えるとは？ ・高度職業人の養成 →教員の質の維持 ・職業人を育てるための研究者の養成 ・産学の連携 ○学生のニーズ ・採用試験をパスすること ・採用数の少なさに対する懸念 ・教育の質に対する問題→募集はまだそれほど減少していない 大学のカリキュラムも重要 リカレント教育ー大学の知の還元 教員の再教育・更新、社会人の再教育	
2 大学が置かれている状況分析 ・教育学部の分散化 必要なのか？ 非効率ー統合 ・長所ー地域性 ・短所ー非効率 各県に必要なか ・原因ー地域のニーズに合っていない	
3 問題点 改革の必要性 ニーズの正しい把握	

## ソラリス班 (D班)

司会者：野村  
記録者：石塚  
発表者：石塚

### 大学の場所

大都市⇔地方都市 私学小規模⇒文系大学2学部 入学者は地元 就職先はその地域が主  
学生の希望は就職 ←このためのスキル(資格)を身につけたい? 簿記 etc

1. ①社会のニーズ 親御さん  
会社 (即戦力←資格もち?) } .....すぐに成果が見えるもの  
=共通  
②学生のニーズ 就職に直結するスキル・資格を身につけたい

### 2. 状況分析

- ・課題 資格試験の合格率←取れないと就職出来づらい? 教育理念との乖離
- ・望まれていないこと：教養的な講義←モチベーションがない
- ・望まれていること：地元への就職、資格やスキルの取得
- ・理由、原因：視野を広げる機会の不足 広い教養への興味の無さ

### 3. 制約、問題点

地方都市ゆへの制約 広い興味を持ってない 資格取得を売りにする←個性を出しづらい

## Enjoy 班 (E班)

司会者：松本  
記録者：前  
発表者：細井

- I 地方、総合大学、規模(基幹大学か否か)→地域産業(地場)のニーズ、要求要請に対応出来る大学  
⇒地域貢献と地域内再生産の人材輩出サイクルだけで良いのか?

※大学の持つ独自の得意分野・領域

①有資格者の輩出 ②研究→地域につながる(マッチング)研究

**目玉**⇒③基盤研究、基礎研究により首都圏の大学との差別化

④国際的グローバリズムへのアクション(学生のニーズは①～③に分かれる)

- II 地方にありながら特色を見出していくか? アピール=目玉の戦略

◎首都圏に行かなくても最先端の研究も出来ることも売りになる

専門教育が始まる3年次以降の就活の早期化・長期化

→十分な専門教育が出来ない(4年間の内2年半のみ、残りは就活)

※(ありきたりの付け焼き刃的) キャリア教育

→企業の求める人材と隔たりがある→批判的思考力、考える力、語学力

→専門性(教育)の中でキャリアにつながっていくカリキュラムの開発

**長所** 大学の存在・経済的効果

(学生がいることの意義)

→地域経済との接点も増える、資本投資・人が集まる

ハウツーでない

・コミュニケーション能力+α

・キャンパス分散による、基礎専門の時間軸のズレ

# チーム・オーケストラ（F班）

司会者：石川  
 記録者：藤原  
 発表者：田中

## ○大学の分類

地域 地方大学

文学部→文学部がなくなっている→人間コミュニケーション学部→教職(少なくなった)  
 →社会のニーズ(どう生きるか)、昔はスパンが長かった

理学部→地域をリードする芸術的なセンス

企業側から マナー、最低限の人間教育 大学に期待していない

営業→広告手法等⇒芸術系→企業の就活にカウントされない＝大学にとってはデメリット

## ○大学教育に求められているもの

- ・ 上手くいくか分からないものへのチャレンジ精神
- ・ 大学で教えている事と社会のニーズを結びつける説明
- ・ 学んだことを人生を生きるときに役立てる(精神的?)

↑  
音楽教育

↓  
コミュニケーションを高める

- ・ 指揮法 →人をまとめる =経営学
- ・ 文芸評論(小説の書き方、文学史) =文学
- 文学 → 思考のシステム化 } 組織運営に使える
- 芸術を極める → 食えない }

## ○学生のニーズ

- ・ ある部分で期待して入る(生命科学、文学、薬学等)
- ・ 居場所、仲間ができる
- ・ 都心、都会性

## ○現実的な制約

教員の勉強の時間が少なくなっている

↓  
教育に影響する？

# ◇グループ作業記録 プログラム I 全体討議記録

## A さくらんぼ班

首都圏 総合大学

- 1 ・社会 高い就職率、生活していくための様々な能力  
・学生 自分が学びたいことを学べる 学びの場の提供
- 2 企業が大学に引っ張られている 長所：ポテンシャルが高い 短所：危機意識が少ない
- 3 未完

## B つばさ班

地方私立(工学部 300 人/教育学部 100 人)想定

- 1 基礎学力、地元志向が強い
- 2 地元の就職先が少ない(短所)、費用が少ない(長所)
- 3 未完

## C 洋なし班

東北の教育関係

- 1 ・社会 教員養成、特に地域に根差した教育  
・学生 採用試験パス、大学のカリキュラム、リカレント教育
- 2 ニーズを把握する

## D ソラリス班

地方都市の私立大学(文系)

- 1 ・学生 地元企業への就職(スキル・資格)  
・社会 親=学生のニーズ 企業=即戦力(スキル、資格)
- 2 資格試験の合格率 教育理念との乖離
- 3 モチベーションがない、広い教養への興味のなさ

## E Enjoy 班

地方・総合大学

- 1 ・社会 地域産業  
・学生 首都圏との差別化
- 2 ・短所 専門教育が出来てない  
・長所 地域の活性化  
キャリア教育が十分ではない(企業とのマッチング)
- 3 学生に考えさせ、いかに行動させるか

## F チーム・オーケストラ

地方大学

- 1 ・社会 マナー、最低限の人間教育、大学に期待していない  
・学生 ばらばら
- 2 学生中心にニーズを見直す、課題は応用力
- 3 応用力をいかに身につけるか



# プログラムⅡ記録「理想の大学をつくる」

<h2>さくらんぼ班（A班）</h2>	司会者：加藤 記録者：小林 発表者：小林
<p>1. 大学の理念・目標(首都圏 総合大学) 学生が学んだことを生き生きと話し合える大学（リーダー育成） →どんな人とも、どんな状況でもうまくできる、経験豊かな人材・グループ</p> <p>理念 学生の学びを大切にする大学</p> <p>2. 方略</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員が生き生きと(楽しく)授業をする(教員の研究を充実させる)</li><li>・教員と学生の距離を短くする</li><li>・学生の発表の場を持たせる(合宿)</li><li>・学習スペースを設ける</li><li>・研究設備の充実</li></ul> <p>3. 実行計画 宣伝が出来る学長・副学長を呼ぶ 名物教員、教員の質の向上</p> <p>4. 卒業生、学生、企業のアンケート</p>	

<h2>つばさ班（B班）</h2>	司会者：伊藤 記録者：石渡 発表者：佐々木
<p>大学：地方私立</p> <p>1. 大学の理念 教育理念:自ら考え、自ら学び、自ら行動できる学生を育てる</p> <p>2. 方略 演習や実習を最初に体験してもらい、学生に何が必要か気づかせ、自ら学ぶ意欲を育てる。 <u>規模をどうするか…?</u></p> <p>3. 計画</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1年生の内に演習、現地で実習により学んでもらう+サポート</li><li>・2年以降で1年生での経験を基にある程度グループに所属させる</li><li>・担任(相談)を設ける</li></ul> <p>4. 評価 方法： アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生：どれだけ自ら学んだか、就職出来たか？</li><li>・教員：保留</li><li>・地元企業(ステークホルダー)：・即戦力でなく、様々な問題に対応出来る人材を得られるか ・大学が地元と一緒に成長していけるか</li></ul>	

## 洋なし班（C班）

司会者：飯田  
記録者：齊藤  
発表者：石澤

### 1. 大学の理念、目標

- ・古くからの愛着、OBとの関係・伝統を絶やさない  
後の世代に対してその地域に必要な教育、地場産業に必要な教育が出来る人材を輩出したい
- ・基本は若い世代を教える→教員が持つような専門性の養成
- ・社会人の再教育プログラムを行う。企業に就職した人を再教育する →個性を出せるのでは？
- ・社会人にも入りやすいような工夫をする。

### ・研究と教育と地域との連携

研究：大学院教育そのものを研究する（グローバル単位）

教育：教員養成（就職できるように教育する）

地域との連携：社会人入学

### 2. ・地域のニーズと教員の専門性が合致して特化するのか？

- ・総合的なものを打ち出していくのか？

### 3. ・授業の様子を動画で配信

- ・オープンキャンパス 学部の授業を聴講 ・行事を設定し広告する

### 4. ・地元学校への就職があったかどうか？→教として出てくる

- ・就職後の人材と実際のニーズが合致しているかの調査
- ・就職後に大学教育が役に立っているのか。

## ソラリス班（D班）

司会者：石澤  
記録者：大久保  
発表者：大久保

### 1 理念・目標

地方(私学)において理想とするもの→教養か就職か

- ・学生(地元)を大切にすること
- ・学生の文化レベルを上げることが、地域の文化レベルを上げることにつながる

↓

地域の発展に貢献する大学 そのためには行政との連携も

### 2 方略

- ・とにかく地元の催事(祭り・花火大会)に参加！
- ・親の意識改革を促す
- ・インターンシップ(就労体験)

### 3 実行計画

ミニコミ紙 地方紙 民放 ローカル番組 フェイスブック

<h2>Enjoy 班（E班）</h2>	司会者：細井 記録者：阿部 発表者：渡辺
<p>1 理念・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的目標 有資格者 地域密着 目玉 国際性</li> <li>・一般目標 地域に根差した特色のある大学づくり 社会に求められる人材育成</li> </ul> <p>2 方略</p> <p>様々なステークホルダーのニーズの確認          学生 親 地域 教員 →把握→方向づけ          →地域貢献とは？          →目玉とは？          →学生のニーズとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材資源の確保</li> <li>・公開講座 →存在意義を高める(サイエンスカフェ) 大学の必然性 企業相手でもいい インターンシップ</li> </ul> <p>3 実行計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育の確保、教養キャリア教育ほどほどに(段階的に) ⇒バランスの確保</li> </ul> <p>4 評価</p> <p>ステークホルダー [多] →多様な視点からの実践、フィードバック 評価 PDCA</p>	

<h2>チーム・オーケストラ（F班）</h2>	司会者：田中 記録者：渡辺 発表者：石川
<p>「理想の大学を作る」</p> <p>1 大学の理念・目標</p> <p>「グローバル」:「グローバル」+「ローカル」          学生のニーズを発見できる場          学生を基軸とした大学</p> <p>2 方略</p> <p>地方ならではの特色          大きな枠組から細部を！          「グローバル」 「グローバル」+「ローカル」          イオングループ ジャスコの発想</p> <p>地域に特化すると受験生減少する          地方から海外へ目を向ける          留学生 語学力、英語授業がネック          日本語に基づく発想（日本文学）          新しいものを創出していく力          プロジェクト 素材          情報提供</p> <p>問題解決型 ソリューション型          PBL</p> <p>新しいものを生み出す          →「グローバル」に持っていく</p>	

# ◇グループ作業記録 プログラムⅡ 全体討議記録◇

## 1 さくらんぼ班

1. 学んだことを話し合える→リーダーの育成
2. 教員が楽しんで授業が出来る、学習スペース、研究設備の充実
3. 名物教員

## 2 つばさ班

1. 自ら考え、自ら学び、自ら行動できる
2. 早いうちに体験して気付かせる
3. 現地で学び、その後グループで学ぶ、居場所
4. 難しい、どれだけ学んだか

## 3 洋なし班

1. 地域の伝統・文化を守る、社会人入学・再教育
2. 教員養成、社会人再教、 地域に特化、総合性？
3. オープンキャンパス、動画配信、現場の問題を吸い上げ
4. 地元企業への就職あったか

## 4 ソラリス班

1. (地元の)学生を大切に→地域の育成→発展
2. 存在をアピール(祭りなどに参加)、インターンシップ
3. ミニコミ、地方紙で宣伝、フェイスブック  
組織論、フリーパス？超青田買い？

## 5 Enjoy 班

1. 有資格者の輩出、技術の還元、国際的視野、地方に根差した社会から求められる人材育成
2. ステークホルダーのニーズの理解、大学以外の組織と交流
3. キャリア教育⇔専門教育
4. ステークホルダーとのチェックポイントの確認、PDCAサイクル

## 6 チーム・オーケストラ

1. 学生のニーズを基軸とした大学 やりたいことを見つける
2. グローカル 自発的にプロジェクトを立上げ→サジェスション
3. 問題解決型教員

## コメント

- ・教員の満足→学生の満足はいいアイデア
- ・学生の育成→地域の育成
- ・学生を育てると地域への貢献があった
- ・教員評価の仕方
- ・大学の専門教育をどうしていくか

# プログラムⅢ記録 「科目設計1:授業名と目標,内容の作成」

<b>さくらんぼ班 (A班)</b>	司会者：小林 記録者：森田 発表者：森田
①授業名： 「数学から世界を知る」 学生数 50～ 色々な学科/コースの学生が出席 2～4年	
②授業の目標： (大学の理念をふまえて) 学んだことを使って数学について熱く語れる ○教員の役割は学習環境を整える ○社会のニーズ 根拠を持って熱く語れる人が、参加する 授業の注意点 講義だけでなく主体的に学べるスタイルに！！  自分にとっての数学論 例えばふとふられた時	

<b>つばさ班 (B班)</b>	司会者：佐々木 記録者：松本 発表者：伊藤
・大学の個性 自ら考え、自ら学び、自ら行動できる 初年次から 作業1 授業名：「スタートアップ 演習」 作業2 ○体験型授業を中心に考える(専門と関連してくる) ○準備→体験→報告 グループ学習 学習目標 専門知識が実社会と密接に関連しているを理解する 到達目標 ・自分の体験を整理し発表できる ・協働作業を通して議論を行うことができる ・仲間と協力して作業を行うことができる 授業内容(グループ学習) ・ガイダンス ・事前学習 ・体験(専門と関連している) ・事後学習 ・報告発表	

<b>洋なし班 (C班)</b>	司会者：石澤 記録者：飯田 発表者：齊藤
教員に地域の文化を教える 場所の重要性、地域学を教える 授業名： 到達目標：文化がその発生した地域や風土と深いつながりを持つものであることを理解し、それを考察する際の応用力を身につける。 学習目標の設定：文化と地域の関係について原則を理解する。またその原則を例示するような事例(ケーススタディ)を学ぶ。さらにその事例を基に、自分たちの関心ある地域及び文化に対して、主体的に考察する。 1. 文化と地域性との関係(原則的なこと) 2. 教員が提供するケーススタディ 3. 学生が調査するケーススタディ 原則を理解する 事例を理解する 授業の構成： 1. ガイダンス 2～5. 文化の地域性に関する理論 6～9. 地域性に関するケーススタディ 10. 学生によるディスカッション 11～13. 他の時代・地域の事例 14. ディスカッション 15. まとめ	

<h1>ソラリス班（D班）</h1>	司会者：大久保 記録者：村田 発表者：村田
<p>課題 国際性を培う授業</p> <p>○学習目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際性を培うとは何か？ 日本にも国際的なものはある。語学→人文地理(アジア圏 社会制度の比較 比較文化) 企業の取引・研修 →東南アジア 商取引(バーチャルで出来る) →手法 (自分たちの国際的な位置づけ)</li> <li>・外のことを知る、自分たちがどう見られているか？ アクティブラーニング - 国際的な取引をする 地元の特産品 市場を開拓する 受講者が地域の国際的な位置づけを出来るようになる 受講者が地域の特色を世界に向けて情報発信できるようにする youtube facebook</li> </ul> <p>◎グループ学習→ 自主学习 自分で調べる 既存のものを活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の目標 地元重視 →産業・文化</li> <li>・地元企業がどういう取引をしているか</li> </ul>	

<h1>Enjoy 班（E班）</h1>	司会者：細井 記録者：松本 発表者：前
<p>授業名：「新エネルギー概論」</p> <p>21 世紀の諸課題 特に今後のエネルギー利用＋環境問題について考察、主題化</p> <p>①火力、②水力、③原子力、④その他（地熱・潮力等）、⑤風力、⑥太陽熱、⑦バイオマス →それぞれについて知識を深めディスカッション、新しい方向性の模索 →以上7項目＋7回のディスカッション</p> <p>学習目標： 持続可能な社会(環境低負荷社会)の実現推進できるようになるために既存のエネルギーに対する知識を習得し、新しいエネルギーを創出できるようになる。(講義＋グループディスカッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーについて漠然としてのみ知っている事柄を、きちんと知る機会を与える (講義)</li> <li>・それを通して自らエネルギー問題について模索出来るようになる。 新エネルギーのアイデアをだしていけるようにする(グループディスカッション)</li> </ul> <p>授業の内容： ガイダンス</p> <p>①火力(ディスカッション・講義) ②水力(講義・ディスカッション) ③原子力(ディスカッション・講義) ④その他(講義・ディスカッション) ⑤風力(講義・ディスカッション) ⑥太陽熱(講義・ディスカッション) ⑦バイオマス(講義・ディスカッション) ⑧まとめ</p> <p>21 世紀の諸問題の中から特に環境とエネルギーを取り上げた授業。 また、エネルギーの種類に重点をおいた授業</p>	

# チーム・オーケストラ（F班）

司会者：渡辺  
記録者：石川  
発表者：藤原

授業名 キャリア形成

学習目標の設定

人生設計(5～10年)を立てる 内定を取る

授業内容

就職活動の流れを理解する

ビジネスマナーを身につける

ゲストスピーカー

会社を作るとして、人事の目線でどういう学生をとるか？

会社の中での自分の立ち位置をあらかじめ考える

(入社後のケア 転職・リストラの場合など)

入社後の不安の解消(モチベーションの維持)

# ◇グループ作業記録 プログラムⅢ 全体討議記録◇

## 1 さくらんぼ班

授業名：「数学から世界を知る」

到達目標：学んだことを使用し数学について熱く語れる

大学理念：学んだことを生き生き話しあえる

社会のニーズ：根拠を持って自分の考えを伝えられる、いろんな人の中で学ぶことができる

## 2 つばさ班

授業名：「スタートアップ演習」

体験型を中心に考える 準備 →体験→報告・グループワーク

大学の個性・・・自ら学び、自ら行動できる

## 3 洋なし班

授業名：「文化と地域性」

学習目標：文化と地域性の関係 教員が提供するケーススタディ

学生が調査するケーススタディ（外部講師（郷土史家など）を入れる）

授業目標：文化と地域の関係について原則を理解する。また、その原則を例示するような事例を理解する。さらに、それらの事例をもとに自分たちの関心のある地域・文化について主体的に考察する

到達目標：文化がその発生した地域や風土とつながりもつものであることを理解し、それを考察する際の応用力をつける

## 4 ソラリス班

国際性を培う授業

学習目標：国際性を培うとは何か、外のことを知る

## 5 Enjoy 班

授業名：「新エネルギー概論」

特に今後のエネルギー＋環境問題について考察する

①火力、②水力、③原子力、④その他（地熱・潮力等）、⑤風力、⑥太陽熱、⑦バイオマス

学習目標：持続可能な社会の実現が推進できるようになるために、既存エネルギーに関する知識を修得し、新しいエネルギーを創出できるようになる。

## 6 チーム・オーケストラ

授業名：「キャリア形成」

学習目標：人生設計を立てる 内定を取る

授業内容：就活の流れを理解 会社の中での自分の立ち位置を考える



# プログラムⅣ記録 「科目設計2:シラバスの完成」

## 授業科目名 数学から世界を考える(さくらんぼ班 (A班))

担当教員: 数学課教員(コーディネーター)※各専門教員

開講学年: 2年 開講学期: 前期 単位数: 2単位

開講形態: 講義・グループワーク・公開シンポジウム

### 【授業概要】

- テーマ  
数学から世界を知る
- ねらい
  - ・根拠を持って自分の数学観を語る
  - ・多様な人の中で学ぶ
- 目標
  - ・学んだことを使って数学について熱く語るができる
- キーワード  
数学・歴史・哲学・自然科学・経済・日常生活・芸術・熱意

### 【授業計画】

- 授業の方法  
講義 グループワーク 公開シンポジウム
- 日程

1	オリエンテーション
2～3	歴史・哲学
4～5	自然科学(物理、宇宙)
6～7	経済
8	芸術
9	日常生活
10～12	グループワーク(グループ作り 方向性)
13～14	発表(20分発表 10分質疑応答)
15	公開シンポジウム ※全教員参加 グループの代表者 高校生の参加者可 注)分野が異なるので事前打ち合わせを行う

### 【学習の方法】

- 受講のあり方
  - ・前の席に座る ・数学嫌いな学生大歓迎(求む! 数学嫌いな者)
- 予習のあり方
  - ・指定された文献を読む
- 復習のあり方  
今日学んだことを誰かに熱く語れる ※友人、家族、ペット

### 【成績評価の方法】

- 成績評価方法  
発表 50%(教員 25% 学生 25%)  
レポート 50%(小～高校までの算数・数学の振り返りおよび今後の方向性)
- 基準  
根拠を持って発表する  
自分の数学観を持つ

### 【科目の位置づけ】

基礎数学 教養教育 数学はあなたの人生を変える

## 授業科目名 スタートアップ演習（つばさ班（B班））

担当教員の所属：全学部教員

開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態：講義及び演習

### 【授業概要】

- テーマ  
演習を通じた基礎的学修
- ねらい  
「自ら考え自ら学び自ら行動する」力の基礎を養う
- 目標
- キーワード

### 【授業計画】

ガイダンス

事前学習 理解度を確認 (20点)

体験・事後学習・発表(グループ40点 個人40点)

まとめ→各自レポート

## 授業科目名 文化と地域性(洋なし班 (C班))

開講学年： 年 開講学期： 単位数： 単位 開講形態：

### (1) どの行動領域を評価するか

- ①知識—文化と地域についての原理・原則、調査した資料
- ②技能—データを分析しそれをわかりやすく発表する能力
- ③態度—主体的に調査・発表し、積極的に議論に加わる

リアクションペーパー→ディスカッションに対する質問 先生に対する質問

### (2) いつ評価するか

教員による講義の後

学生主体のディスカッションの後 } リアクションペーパー

プレゼンテーションの内容 →発表後提出

### (3) 評価の目的

学生が授業の主旨に沿って、自分なりに問題を解決しているかどうか

リアクションペーパーで、学生・教員双方で授業の問題点を明らかにする

総合評価：調査・分析 プレゼンテーション能力を総合的に評価する

### (4) いかにより評価するか

リアクションペーパー 20%

発表後のレポート 30%

プレゼンテーション 30%

ディスカッション 20%

## 授業科目名 世界の中のソラリス市(ソラリス班 (D班))

開講学年： 年 開講学期： 期 単位数： 単位 開講形態：

### 【授業概要】

- テーマ  
自分の住む地域を世界に向けて紹介することを通じて、「国際的な視点」について考える
  - ねらい  
受講者が地域の国際的な位置づけを理解し説明できるようになる
  - 目標  
受講者が地域の特性・特色を説明し発信できるようになる
- ◎オリエンテーション  
◎ディスカッション 資料集め まとめ  
◎発表3回(テーマごと)→歴史 風土 産業  
◎班を横断した意見交換 1回  
◎最終版を作りネットワークへアップする  
◎公開の発表会：ポスター(留学生向け?)→1回
- 成績評価基準  
グループ：取組・参加 40%  
個人：ディスカッションへの意見 20%  
(世界に対する意識)  
グループ：最終版 40%

## 授業科目名 新エネルギー概論 (Enjoy班 (E班))

開講学年： 1 年 開講学期： 前期 単位数： 2 単位 開講形態：

### 【授業概要】

- テーマ  
21世紀のエネルギーを考える
- ねらい  
既存のエネルギーの正しい理解  
再生可能エネルギーの正しい理解  
新エネルギーについて考える
- 目標  
持続可能な社会の実現推進出来るようになるために、既存のエネルギーに関する知識を習得し、新しいエネルギーを創出できるようになる
- キーワード  
持続的社會、再生可能エネルギー

### 【授業計画】

- 授業の方法  
1項目について2時間 10人程度のグループ  
ディスカッション→講義 ※再生可能エネルギーに関しては講義→ディスカッション  
授業内容(単元)ごとに、グループディスカッションと講義を実施する
- 日程  
1～2 火力  
3～4 水力  
5～6 原子力

- 7～8 その他（地熱・潮力等）
- 9～10 風力
- 11～12 太陽熱
- 13～14 バイオマス
- 15 総括

#### 【学習の方法】

- 受講のあり方  
積極的に議論に参加する  
グループの意見集約を正しく実施し、図式化してレポートにまとめる
- 予習のあり方  
グループディスカッションのための情報収集
- 復習のあり方  
疑問点の質問

#### 【成績評価の方法】

- 成績評価基準  
既存のエネルギー、再生可能エネルギーに対する知識の習得  
グループディスカッションにおける意見の正しい集約
- 方法  
1項目ごとグループレポート・・・全7項目  
論述試験  
レポート

### 授業科目名 キャリアデザインとモチベーション (チーム・オーケストラ (F班))

開講学年： 1 年 開講学期： 後 期 単位数： 2 単位 開講形態：  
科目区分： 必修

#### 【授業概要】

- テーマ  
1年生のうちから自分の将来を考えて大学で学ぶ人と、そうでない人の差は大きい。将来を見据えて、自ら行動できるようにする
- ねらい  
働くことの意義を考え、これからの生き方について考える。就職することは内定を取ることが最終目標でない。内定を取った後も高いモチベーションを保ちながら、学生から社会人へのシフトを図る。
- 目標
  - ① 就活の流れと何をいつまでにどう実行すべきかを理解できる
  - ② 内定を獲得できる
  - ③ 自分の将来について人生設計を立てられる
- キーワード  
キャリア形成 キャリアデザイン 内定 モチベーション 人生設計

#### 【授業計画】

- 授業の方法  
外部講師 (OB、OG、マナー講座の講師、人事担当者) グループディスカッション 企業インタビュー  
段階的(①エントリー前 ②エントリー後 ③人事の目線 ④人生設計 ⑤実践)
- 日程  
[エントリー前期]

- 1 オリエンテーション (①講義の目的 ②受講のルール ③評価の方法)
- 2 働くことの意義を考えよ (①生涯賃金 ②親の仕事を知る ③やりたいこととできること)
- 3 どのような仕事があるのか (①業界研究 ②職種研究 ③企業研究)
- 4 自己分析してみる (①人生の棚卸をしてみる ②他己紹介を行う  
③自己紹介を行う (印象づけるプレゼンテーション) )

[エントリー後期]

- 5 エントリーシートの作成 (①志望動機 ②自己PR ③小論文)
- 6 ビジネスマナー [外部講師] (①立ち居振る舞い ②身だしなみ ③メール・手紙・電話)
- 7 ディスカッション (①テーマについて議論する ②役割分担 ③結果を導くプロセス)
- 8 面接を楽しむ (①集団面接 ②個人面接)
- 9 筆記試験について (①SPI-2 ②一般常識 ③webテスト)

[人事の目線]

- 10 グループディスカッション (①起業するとして仲間を募る ②人材のどこを見る)
- 11 人事の視点 [外部講師] (①採用マニュアル ②内定が出る人・出ない人)

[人生設計]

- 12 内定後の大学生活 (①企業とのコンタクト ②資格の取り方)
- 13 キャリア形成 (①自分の将来設計 ②転職について)

[実践]

- 14 企業インタビューを行う (①アポの取り方 ②質問項目)
- 15 インターンシップ (①仕事を体験してみる)

【学習の方法】

- 受講のあり方  
社会人としての自覚を持つために受講はスーツ着用とする  
ビジネスマナーを重視する
- 予習のあり方  
毎回の課題を予習として出題する
- 復習のあり方  
毎回の課題を復習としてフィードバックする

【成績評価の方法】

- 成績評価基準
 

出席を重視する	}	3点×15回	}	加点方式
締切日時までの課題の提出状況				
グループディスカッションの発言状況	}	1回 3点		
グループディスカッションの役割				
- 方法  
客観性を重視し、教員が採点しても学生が採点しても同じになる

【その他】

- 学生へのメッセージ

## ◇グループ作業記録 プログラムⅣ 全体討議記録◇

### A : さくらんぼ班

「数学から世界を知る」2年前期

熱く語る 根拠を持って

キーワード 数学 歴史 哲学 自然科学 経済 日常生活 芸術 熱意

### B : つばさ班

「スタートアップ演習」1年前期

2年目から前年履修者に説明してもらう

評価 事前学習・理解度 20点 個人 40点 グループでの成果 40点

### C : 洋なし班

「文化と地域性」

評価 リアクションペーパー 20点 レポート 30点 プレゼン 30点

ディスカッション 20点

### D : ソラリス班

「世界の中のソラリス市」

評価 グループ取組参加 40点 グループ発表 40点

個人ディスカッションへの参加 20点

### E : Enjoy 班

「新エネルギー概論」

キーワード 持続的社會と再生可能エネルギー

### F : チーム・オーケストラ

「キャリアデザインとモチベーション」

1年必修

キーワード キャリア形成 キャリアデザイン 内定 モチベーション 人生設計

評価 出席重視

## 【第2チーム】FD合宿セミナープログラム及び記録

### ○プログラム抜粋

#### FD合宿セミナーに当たって

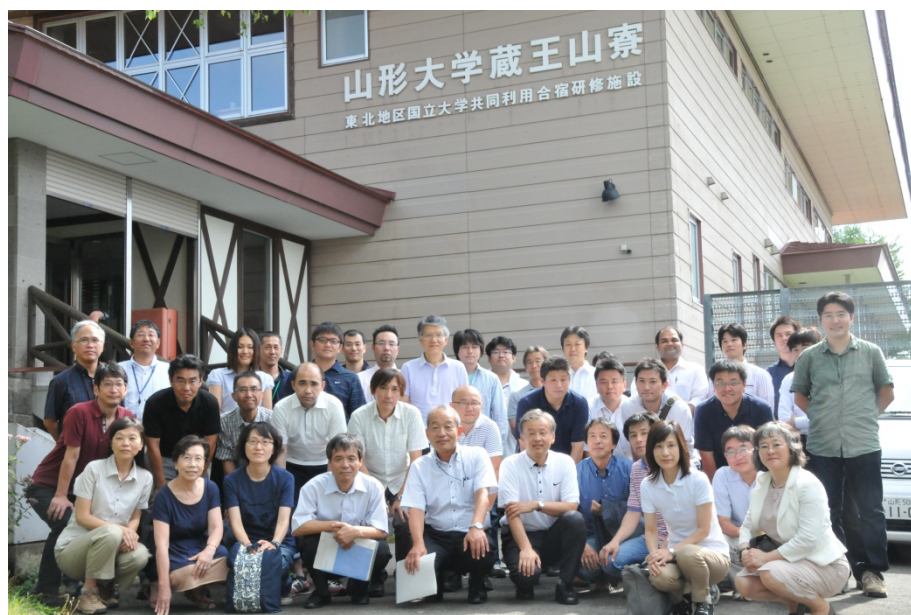
山形大学では、平成13年度よりこの合宿セミナーを実施し、教養教育の目標や授業の企画、シラバス作成を通して授業のスキル向上を実現するとともに、学部間の人的交流の拡大・充実を図ってまいりました。このような基盤のうえに、さらに「授業改善」に焦点化したアドバンスプログラムを実施することになりました。

このセミナーの第一の目的は、「個人個人の教員が教育者としての自己認識の深まりと学生の学びを大切にする授業、および授業改善の方法を具体的なケースを交えて考察・議論し、学生を中心とする教育・授業を発展させること」です。この目的を達成するために、本セミナーでは4つの参加型ワークショップを行います。これにより、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することにもなります。

また、「ワークショップを共通の題材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が大学の教育分野全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーはFDネットワーク“つばさ”の参加校を始めとして、全国の大学等に開かれています。他機関からの参加者にとりましても、本セミナーで学んだことは自校の教育の発展に活用することができるとともに、参加者がそれぞれの大学等の財産となる、さらにはそれが我が国全体の財産となるという精神でのぞんでいます。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



## 第12回 山形大学FD合宿セミナー日程表

期 間 第2チーム：8月29日（火）～30日（水）

### ○第1日目

時 刻	項 目	担 当	備 考
12:45	山形大学小白川キャンパス集合・受付	事 務	
13:00	送迎バス 大学出発		
14:00	会場到着・記念撮影 セミナー開会 開会のあいさつ	司会：杉原	
14:30	オリエンテーション	杉原	
14:40～15:10	アイスブレイク	田実	
15:10～16:50	プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の 美しき誤解－」	田実	
16:50～17:00	休憩（10分間）		
17:00～18:10	プログラムⅡ「学生のニーズに応える授業力とは？－ インタラクティブな授業－」	田実	
18:10～19:00	夕食（その後お風呂・休憩）		
19:00～20:00	入浴・休憩		
20:00～22:00	懇親会		
22:00	中締め		
23:00	就寝		

### ○第2日目

時 刻	項 目	担 当	備 考
7:30～	朝食・部屋退出		
8:30～10:00	プログラムⅢ「授業力の向上－わかりやすい授業を 実現するために－」	大島	
10:00～10:10	休憩（10分間）		
10:10～11:40	プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」	大島	
11:40～	修了式（ポストアンケート）	司会：杉原	
12:20～	昼食		
13:10	送迎バス 蔵王山寮出発		
15:00頃	山形駅経由 大学到着 解散		

### 【留意事項】

- セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。
- セミナー期間中の個人の呼称は、「〇〇さん」とします。
- 食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。
- 起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。
- 退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。
- スキーヤーズベットは各部屋2段になっておりますが、清掃と危険防止の観点から2階部分は使用しないでください。
- ベット上での飲食はご遠慮ください。



8月29日 第2チーム 1日目

DR-A	田実 潔
DR-B	大島 武

A班

所属	氏名	性別
山形大学	小倉 泰憲	男
山形大学	永井 毅	男
愛知東邦大学	浅野 和也	男
帝京大学	高井 久美子	女
一橋大学	長谷 海平	男
松本大学	太田 勉	男

B班

所属	氏名	性別
山形大学	恩田 弥生	男
岡山理科大学	平山 文則	男
高知大学	森 牧人	男
国際武道大学	森 実由樹	男
八戸短期大学	建守 善之	男

C班

所属	氏名	性別
山形大学	阿部 靖之	男
いわき短期大学	常深 浩平	男
共栄大学	石塚 勝美	男
鶴岡工業高等専門学校	三上 貴司	男
帝京大学	横山 明子	男

D班

所属	氏名	性別
山形大学	Sukumaran Sathish Kumar	男
石巻専修大学	水野 純	男
滋賀短期大学	片山 友子	男
東北文化学園大学	田中 聡美	男
福島工業高等専門学校	山田 貴浩	男

E班

所属	氏名	性別
山形大学	小林 知可志	男
いわき短期大学	金 珉呈	男
仙台大学	入澤 裕樹	男
東北芸術工科大学	藤田 寿人	男
苫小牧駒澤大学	高橋 裕史	男

F班

所属	氏名	性別
山形大学	多田隈 理一郎	男
いわき明星大学	中山 英治	男
羽陽学園短期大学	樋口 健介	男
昭和薬科大学	水谷 顕洋	男
高崎健康福祉大学	芝山 江美子	男
鶴岡工業高等専門学校	徳永 慎太郎	男

8月30日 第2チーム 2日目

DR-A	田実 潔
DR-B	大島 武

A班

所属	氏名	性別
山形大学	Sukumaran Sathish Kumar	男
いわき短期大学	常深 浩平	男
いわき短期大学	金 珉呈	女
苫小牧駒澤大学	高橋 裕史	男
福島工業高等専門学校	山田 貴浩	男
松本大学	太田 勉	男

B班

所属	氏名	性別
山形大学	小倉 泰憲	男
いわき明星大学	中山 英治	男
岡山理科大学	平山 文則	男
東北芸術工科大学	藤田 寿人	男
東北文化学園大学	田中 聡美	女

C班

所属	氏名	性別
山形大学	多田隈 理一郎	男
高知大学	森 牧人	男
仙台大学	入澤 裕樹	男
鶴岡工業高等専門学校	徳永 慎太郎	男
帝京大学	横山 明子	女

D班

所属	氏名	性別
山形大学	永井 毅	男
羽陽学園短期大学	樋口 健介	男
共栄大学	石塚 勝美	男
滋賀短期大学	片山 友子	女
八戸短期大学	建守 善之	男

E班

所属	氏名	性別
山形大学	小林 知可志	男
山形大学	恩田 弥生	女
愛知東邦大学	浅野 和也	男
石巻専修大学	水野 純	男
鶴岡工業高等専門学校	三上 貴司	男

F班

所属	氏名	性別
山形大学	阿部 靖之	男
国際武道大学	森 実由樹	男
昭和薬科大学	水谷 顕洋	男
高崎健康福祉大学	芝山 江美子	女
帝京大学	高井 久美子	女
一橋大学	長谷 海平	男

## オリエンテーション

### 1 FDの必要性

- ① 大学の社会的教育責務の明確化。
- ② 大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革。
- ③ 大学生の質の変化への対応。

### 2 合宿セミナーの目的

- ① 教員個人が大学を支えること的位置付け。
- ② 学生一人ひとりの発達と同様に教員一人ひとりが同僚の力を得て発達することを改めて確認する。
- ③ 教授法について共に考え、スキルアップする。
- ④ 教員相互の交流。

### 3 セミナー形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② セミナーのグループ構成：6班  
「プログラムⅠ・Ⅱ」（1日目）と「プログラムⅢ・Ⅳ」（2日目）で、班構成を替えます。
- ③ プログラムによっては、全体での発表の際に記録をとるための記録係を置く場合があります。また、グループワークにおいて、各班に、司会者、記録係等を置く場合もあります。
- ④ 「③」で記録したものは、各プログラム終了後に提出していただきます（この記録は、こちらでコピーした後、速やかに全班に配付します）。
- ⑥ 最終日に合宿セミナーに関するポストアンケートを実施します。

## プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の美しき誤解－」

### ここでの課題

プログラムⅠ「学生が求める授業とは？－大学教員の美しき誤解」では、まずいくつかのデータをお示ししたいと思います。それを基に、学生参加型授業の大切な（と勝手に私が思っている）構成要素である学生の大学授業に対する意識を明確にし、大学教員との意識のギャップを皆さんで考える時間にします。

その上で、後半は参会者の皆さんの授業実践を持ち寄り、共有することにします。他の人の実践には必ず学ぶべき点があるように思います。自分では気づかなかった点でも、実践を交換するうちに、気づかされたり指摘されたりすることもあります。良い点を見つけ合いましょう。

- |                 |      |
|-----------------|------|
| ○ プログラムの講師による講義 | 60分  |
| ○ 作業内容の説明       | 5分   |
| ○ グループでの協議・プレゼン | 10分  |
| ○ グループでの選択協議    | 5分   |
| ○ 各グループ発表       | 20分  |
| 全体で             | 100分 |

## プログラムⅡ「学生のニーズに応える授業力とは？ーインタラクティブな授業ー」

### ここでの課題

プログラムⅡでは、コミュニケーションに課題のある発達障害のある人への支援や研究から、インタラクティブ(相互交流)のある授業作り(とても簡単なことです)について、いくつかの知見をご紹介します。その上で、予め用意された授業課題について、数人の参会者の方にプレゼン(模擬授業)をして頂きます。学生役の皆さんを含めた意見交流から、インタラクティブな授業について、議論ができたかと考えています。

- インタラクティブな授業のヒントの説明 10分
  - グループごとに与えられた題材について討論 10分
  - プレゼン前の打ち合わせ 5分
  - プレゼン 20分(10分×2)
  - まとめと質疑応答 15分
- 全体で60分

## プログラムⅢ「授業力の向上ーわかりやすい授業を実現するためにー」

### ここでの課題

プログラムⅠ～Ⅱで検討した学生のモチベーション向上、授業への参画を実現するためには、まず教える教員自身に指導力・授業力が求められます。「わかりやすい」「興味の湧く」授業を実現するにはどうしたらいいのか。このセッションでは、授業スキルの向上という基本に立ち返り、講師の体験に基づく講義をベースにディスカッション形式で考えを深めます。

- プログラムの講師による内容の説明 5分
  - 「授業力向上のためにはーケーススタディー」 55分  
→次頁のレジュメにそった講義
  - 「よりよい授業を目指してーディスカッションー」 30分  
→講義内容を踏まえ、よりよい授業を実現するためのポイントを整理する。  
→自分の持っている問題点の洗い出しと解決策の模索を行う。
- 全体で90分

### 【ケーススタディーー私の授業法ー】

#### 1. ガイダンスのしかた

- 必ずワンペーパー作って渡す。 ← 最初の3週間で徹底

#### 2. 授業の組み立て方

- 90分を3つのパートにわけると ← 話しの構造化
- 時間の使い方を予告し、守る。 ← 全体像を見せることが大切
- 「つかみ」が大切(冒頭に力をいれる) ← 終わりはすっきり

#### 3. 効果的な表現技術

##### ■ 言語表現の工夫

- ・ 「例示」の多用 ← 相手に合った例を挙げる
- ・ 「つなぎ言葉」の活用 ← ゆっくり間を取って話す
- ・ 「用語」の選択と位置付け ← 新出語に注意

##### ■ 非言語表現の効果

- ・ 身体表現 ← gesture と posture の使い分け
- ・ 対人距離 ← 机間巡視/指導はどこまで有効か

- ・表情 ← 笑顔が基本（好意の返報性）
  - ・アイコンタクト ← プレッシャーと激励
4. 資料配付と板書
- 教科書の使い方 ← 買わせたら使う／使わないなら買わせない
  - レジユメの効果 ← 情報を与えすぎない
  - 板書は最高のビジュアル ← 小学校時代からのお約束
5. 双方向性の確保
- 発問のしかた（3つのポイント） ← 大切なのはリズム
  - 紙ベースでのやりとり ← e x) 大手前短大「なるほどポイント」
6. 評価のしかた
- 「合わせ技」が基本 ← e x) 出席 10% リスニング 10%  
小テスト 40%  
プレゼン 20% 解答・提出物 20%
  - 主観と客観のバランス ← 学生が納得できる基準を明示する  
(妥当性・客観性・効率性)
  - 個人情報保護と説明責任 ← 授業期間と終了後で区別

## プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」

### ここでの課題

プログラムⅢで議論，検討したより良い授業を実現するためのポイントについて，各グループに発表していただき，全体での分かち合いを行います。また，2日間の研修を通じて，自分のコミュニケーションスタイルが他人にどんな印象を与えたのか，イメージ交換ゲームを通じてふりかえります。

- プログラムⅣの検討結果のプレゼン 5分×6班 30分
- イメージ交換ゲームの実施 30分
- イメージ交換ゲームのふりかえり 15分
- 研修全体のまとめ ー学びをFDに生かしていきましょうー 20分  
全体で 90分



プログラムⅠ記録 「学生が求める授業とは？—大学教員の美しき誤解—」  
プログラムⅡ記録 「学生のニーズに応える授業力とは？—インタラクティブな授業—」





プログラムⅢ記録「授業力の向上—わかりやすい授業を実現するために—」  
プログラムⅣ記録「研修のふりかえりとまとめ」

